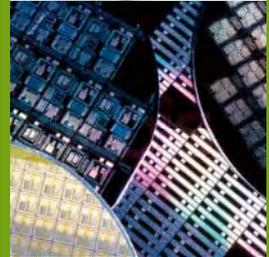




ミライアル株式会社 2013年1月期 第3四半期決算説明資料

2012年12月7日



Mirai ミライアル株式会社



目次

2013年1月期 第3四半期累計期間決算概要.....	2
2013年1月期 第3四半期会計期間決算概要.....	8
2013年1月期業績予想	12
弊社を取り巻く業界環境	16
今後の経営戦略	18



2013年1月期 第3四半期累計期間決算概要

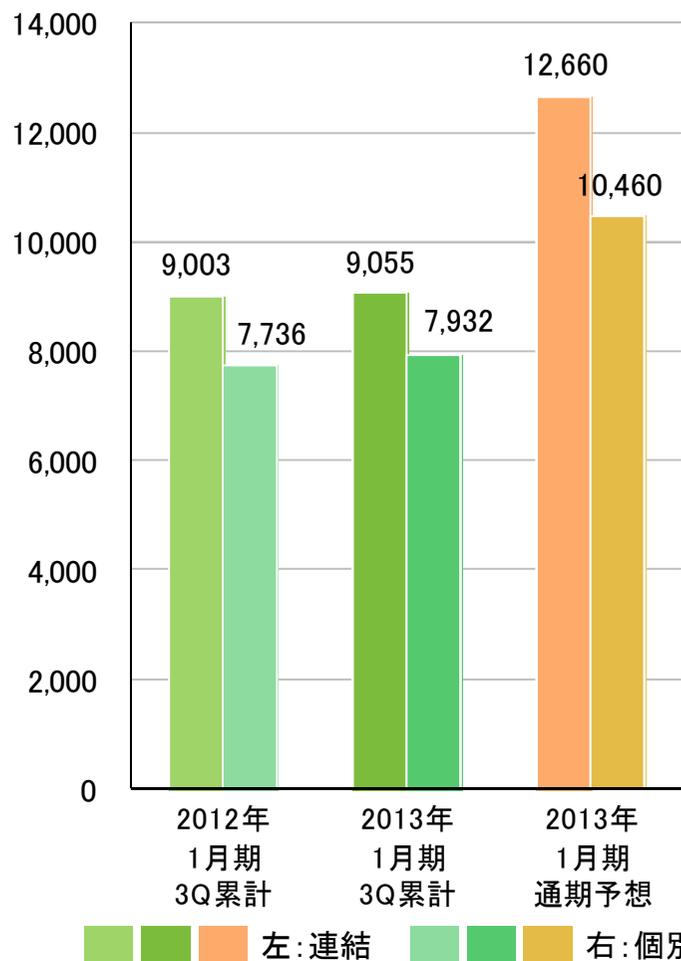


1. 売上高/経常利益の比較(連結)

- 売上高は、プラスチック成形事業にて、東日本大震災からの復興など緩やかながら景気が持ち直しに向かう動きが見られ、受注増加により、売上高は堅調に推移しました。その結果、前年同期比0.6%増となりました。
- 営業利益では、プラスチック成形事業の販売数量の増加と生産効率の向上により増益となりましたが、前期にあった負ののれんの償却額、保険返戻金等の影響により、経常利益は前年同期比4.9%減となりました。

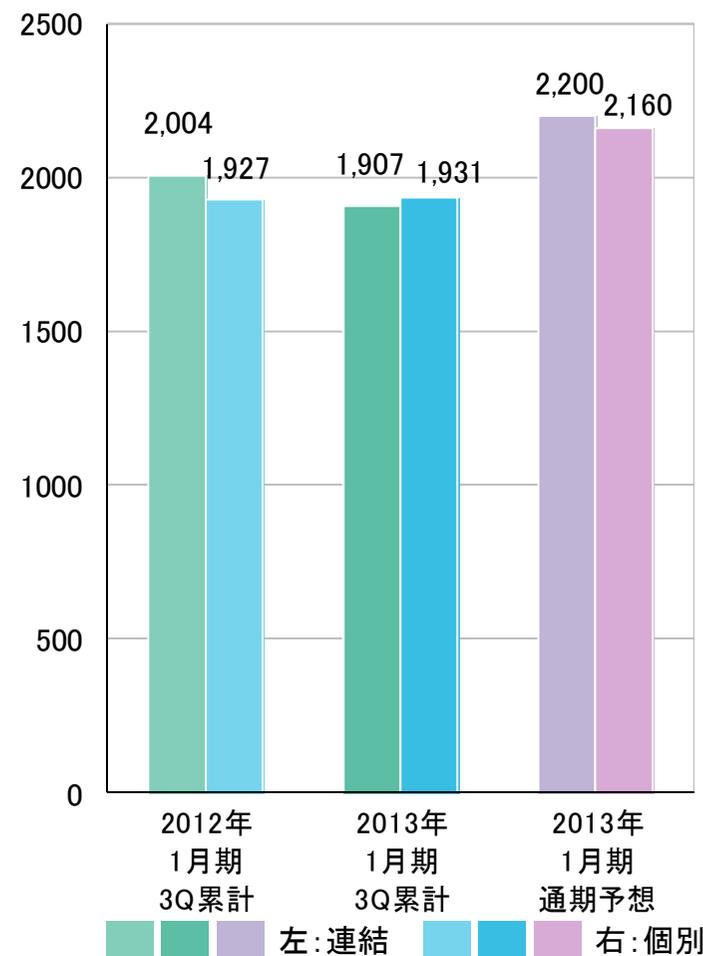
売上高(連結・個別)

(単位:百万円)



経常利益(連結・個別)

(単位:百万円)





2. 2013年1月期 第3四半期累計期間決算概要

連結業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期 第3四半期累計		2013年1月期 第3四半期累計	
	金額	前年同期 増減率	金額	前年同期 増減率
売上高	9,003	△1.7	9,055	0.6
売上総利益	3,313	△14.4	3,514	6.1
営業利益	1,849	△23.3	1,866	0.9
(営業利益率)	20.5		20.6	
経常利益	2,004	△23.9	1,907	△4.9
税引前当期純利益	1,917	△36.3	1,816	△5.3
当期純利益	1,024	△46.5	1,191	16.3
設備投資	40		928	
減価償却	348		342	
純資産	15,976		16,889	
総資産	20,180		21,016	

個別業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期 第3四半期累計		2013年1月期 第3四半期累計	
	金額	前年同期 増減率	金額	前年同期 増減率
売上高	7,736	△1.5	7,932	2.5
売上総利益	2,914	△17.7	3,158	8.4
営業利益	1,865	△25.6	1,899	1.8
(営業利益率)	24.1		24.0	
経常利益	1,927	△26.1	1,931	0.2
税引前当期純利益	1,889	△32.7	1,922	1.7
当期純利益	1,097	△35.7	1,133	3.3
設備投資	18		947	
減価償却	320		317	
純資産	15,774		16,552	
総資産	18,878		20,044	

3. 事業別売上高の比較

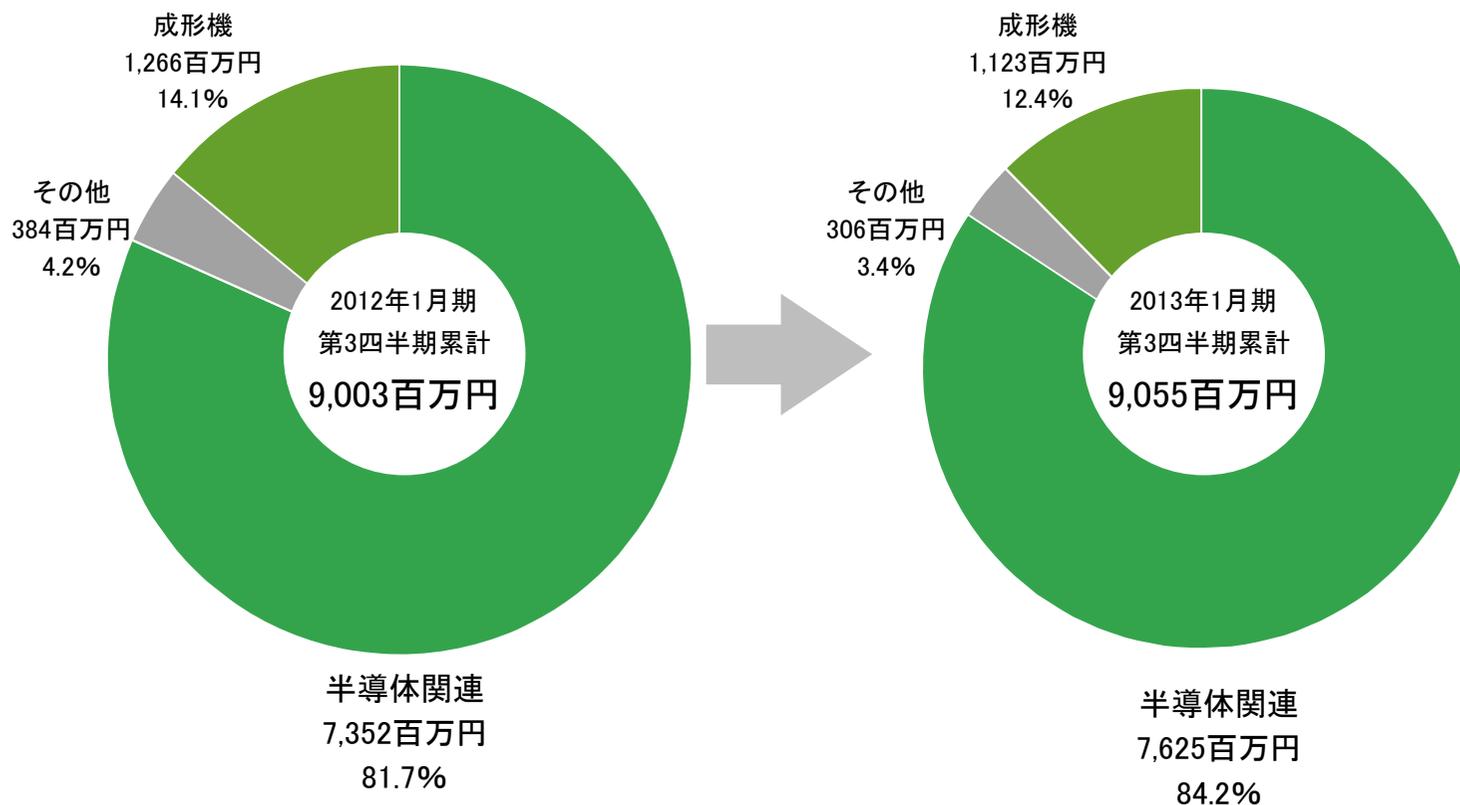
事業別売上高(連結)

■ プラスチック成形事業

- 半導体関連事業は、3.7%増の76億25百万円。
- その他事業は、20.1%減の306百万円。

■ 成形機事業

- 成形機事業は、11.3%減の11億23百万円。

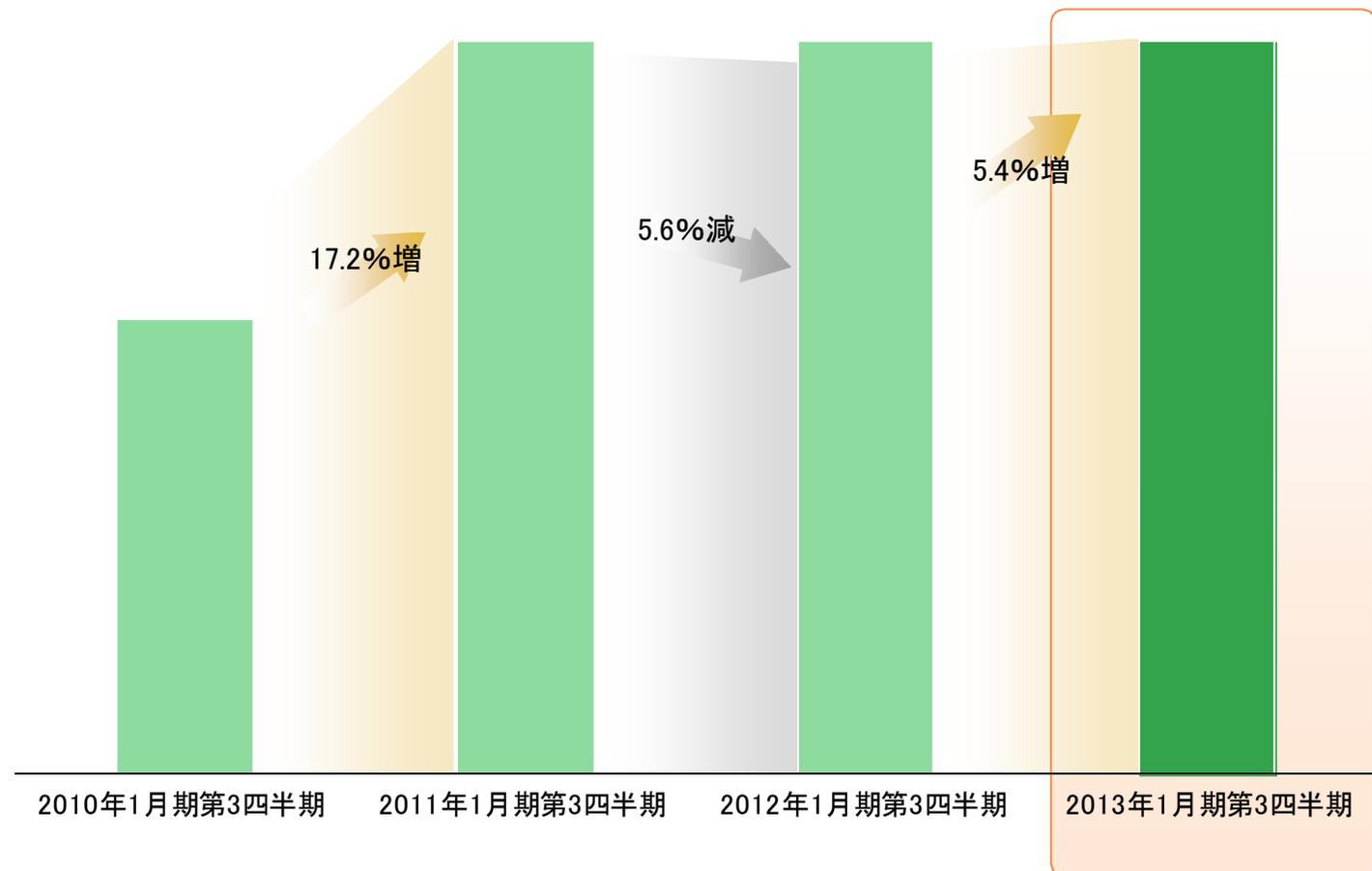




4. 半導体関連製品事業の業績

- 出荷容器は前年同期比5.4%増、工程内容器は、前年同期比8.1%減となっております。

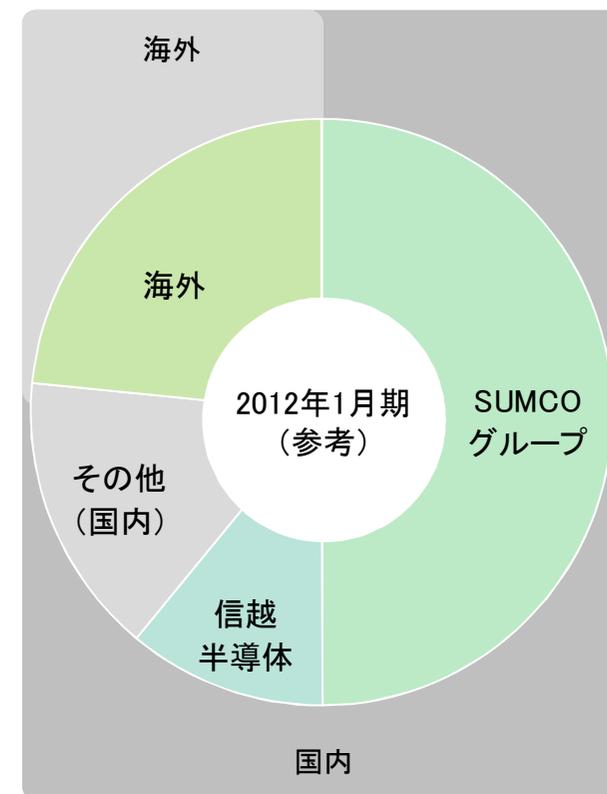
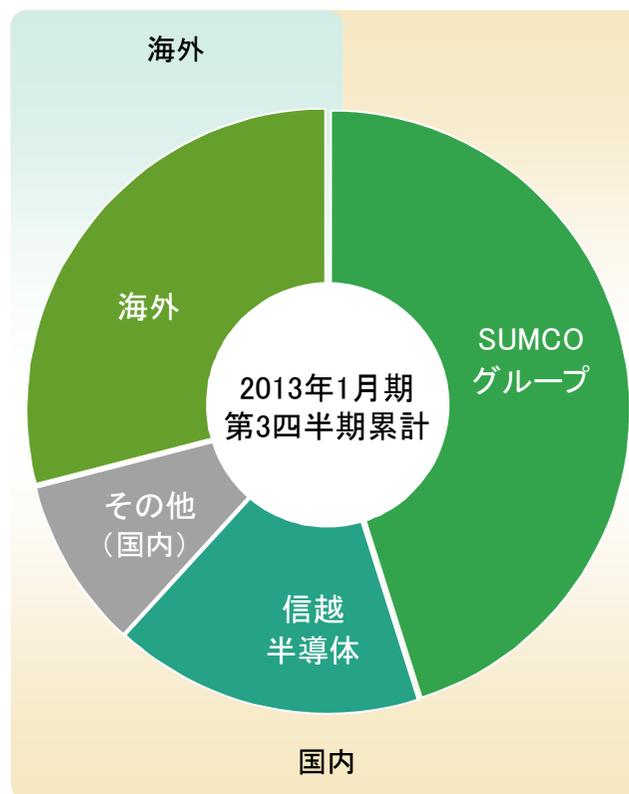
シリコンウエハ出荷容器 売上高の推移





5. FOSB出荷実績得意先別シェア

弊社FOSB出荷実績得意先別シェアの動向





2013年1月期 第3四半期会計期間決算概要

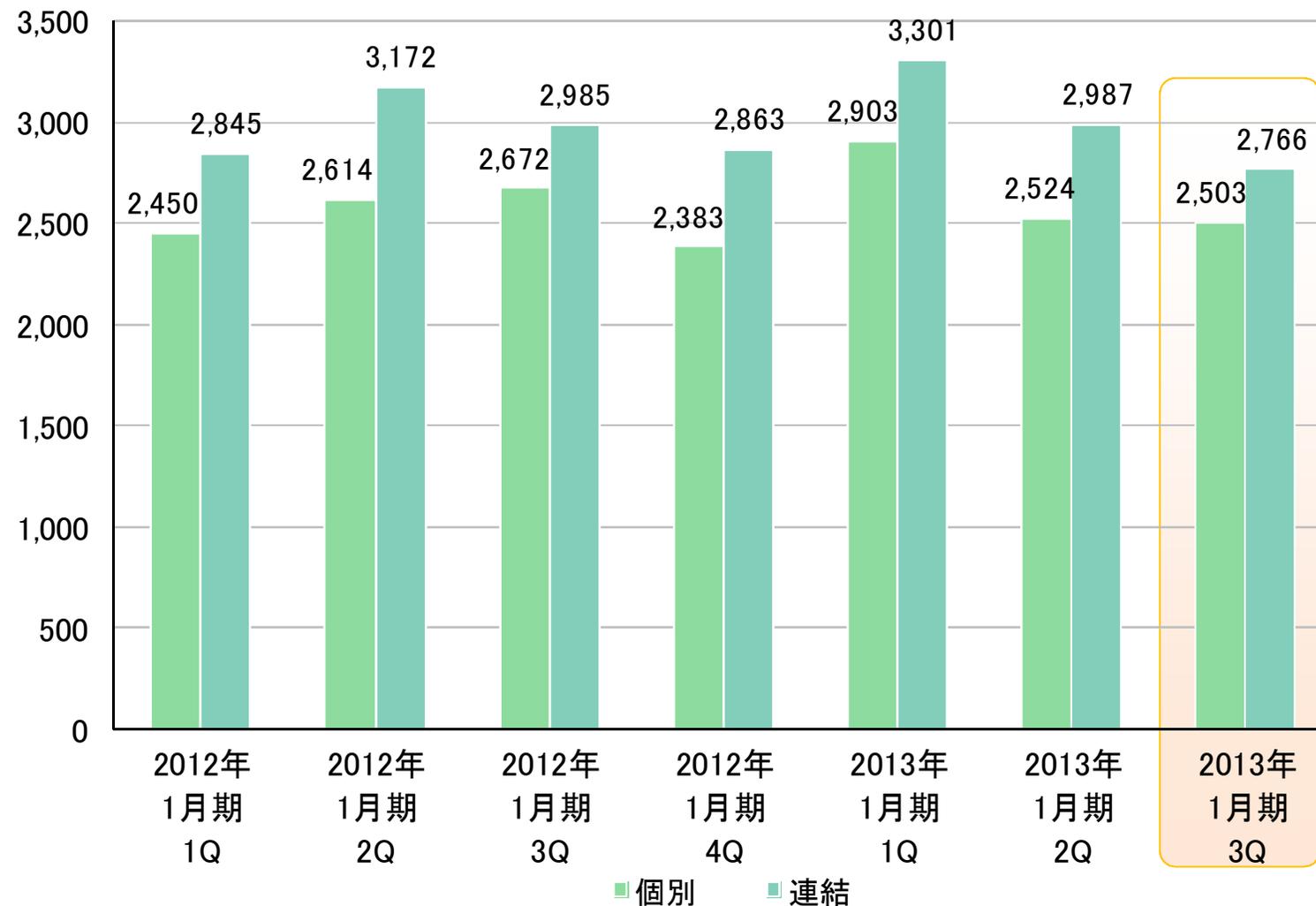


1. 業績ハイライト

- 連結売上高は、2Qから7.4%減の27億66百万円でした。
- 個別売上高は、2Qから0.8%減の25億3百万円でした。
- ミライアル単体は、主力製品である300mmシリコンウエハ出荷容器「FOSB」は、前年度後半からの在庫調整局面が一段落し、受注増加が見られたことから、売上高は堅調に推移し、セグメント利益も増加しました。
- 連結子会社の(株)山城精機製作所は、震災の影響や円高の長期化等の外部環境及び国内景気の停滞、海外生産の進行により、予断を許さない状況が続いております。これに対して、更なるコスト改善と高付加価値製品の拡販に注力しましたが、業績は低調に推移しました。

売上高推移(四半期毎)

(単位:百万円)





2. 半導体関連事業の業績

- 出荷容器は、2Qから2.4%増となっております。

シリコンウエハ出荷容器 売上高の推移(四半期毎)



3. 2013年1月期 第3四半期会計期間決算概要

連結業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期 第3四半期		2013年1月期 第3四半期	
	金額	前四半期 増減率	金額	前四半期 増減率
売上高	2,985	△5.9	2,766	△7.4
売上総利益	1,143	△0.9	1,121	△4.0
営業利益	668	0.5	543	△16.2
(営業利益率)	22.4		19.6	
経常利益	663	△16.9	552	△17.5
税引前当期純利益	633	△19.0	554	△15.9
当期純利益	378	△15.3	321	△41.0
設備投資	19		576	
減価償却	122		147	
純資産	15,976		16,889	
総資産	20,180		21,016	

個別業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期 第3四半期		2013年1月期 第3四半期	
	金額	前四半期 増減率	金額	前四半期 増減率
売上高	2,672	2.2	2,503	△0.8
売上総利益	1,013	△0.3	1,051	4.5
営業利益	684	3.5	582	△5.9
(営業利益率)	25.6		23.3	
経常利益	651	△14.4	593	△6.8
税引前当期純利益	651	△12.2	595	△4.9
当期純利益	391	△5.0	362	2.1
設備投資	6		585	
減価償却	112		140	
純資産	15,774		16,552	
総資産	18,878		20,044	



2013年1月期業績予想



1. 業績予想サマリー

売上高

- 世界全体の半導体市場規模は、景気循環の影響を受けながらも、マクロ的には拡大を続けていく見通しです。
- 半導体業界の成長率は微増の予想にとどまり、品質向上と更なるコスト削減による競争力の強化を図ってまいります。
- リユースについては、足下で全体の容器量の内、30%前後で推移していると予想しています。今後も同様に推移すると見込んでいます。
- 成形機事業では、市場動向を注視し、汎用機の標準化と付加価値の高い特殊機に重点を置き、売上高・利益ともに回復を図ってまいります。

営業利益、経常利益

- グループでのコラボレーションを強化し、更なるコストダウンを実施します。
- 既存製品の設備投資は、合理化及び品質維持に要する設備投資に限定します。
- 450mm関連製品は、市場動向を見極め積極的に取り組み、開発投資、設備投資をしていきます。このため、先行して開発費、償却費の負担が発生します。



2. 業績予想

損益計算書(連結)

(単位:百万円・%)

	2012年1月期		2013年1月期(予)			
			2013年1月期 第3四半期累計			
	金額	前期増減率	金額	前期増減率	金額	前期増減率
売上高	11,867	△0.6	9,055	0.6	12,660	6.7
営業利益	2,295	△21.2	1,866	0.9	2,190	△4.6
経常利益	2,475	△22.1	1,907	△4.9	2,200	△11.1
(当期)純利益	1,348	△38.5	1,191	16.3	1,240	△8.1

事業別売上高

(単位:百万円・%)

	2012年1月期			2013年1月期(予)					
				2013年1月期 第3四半期累計					
	金額	構成比	前期 増減率	金額	構成比	前期 増減率	金額	構成比	前期 増減率
プラスチック成形事業	10,120	85.3	△0.6	7,932	87.6	2.5	10,460	82.6	3.4
半導体関連	9,634	81.2	△0.7	7,625	84.2	3.7	9,930	78.4	3.1
その他	485	4.1	△0.2	306	3.4	△20.1	530	4.2	9.1
成形機事業	1,747	14.7	△0.5	1,123	12.4	△11.3	2,200	17.4	25.9
合計	11,867	100.0	△0.6	9,055	100.0	0.6	12,660	100.0	6.7



弊社を取り巻く業界環境

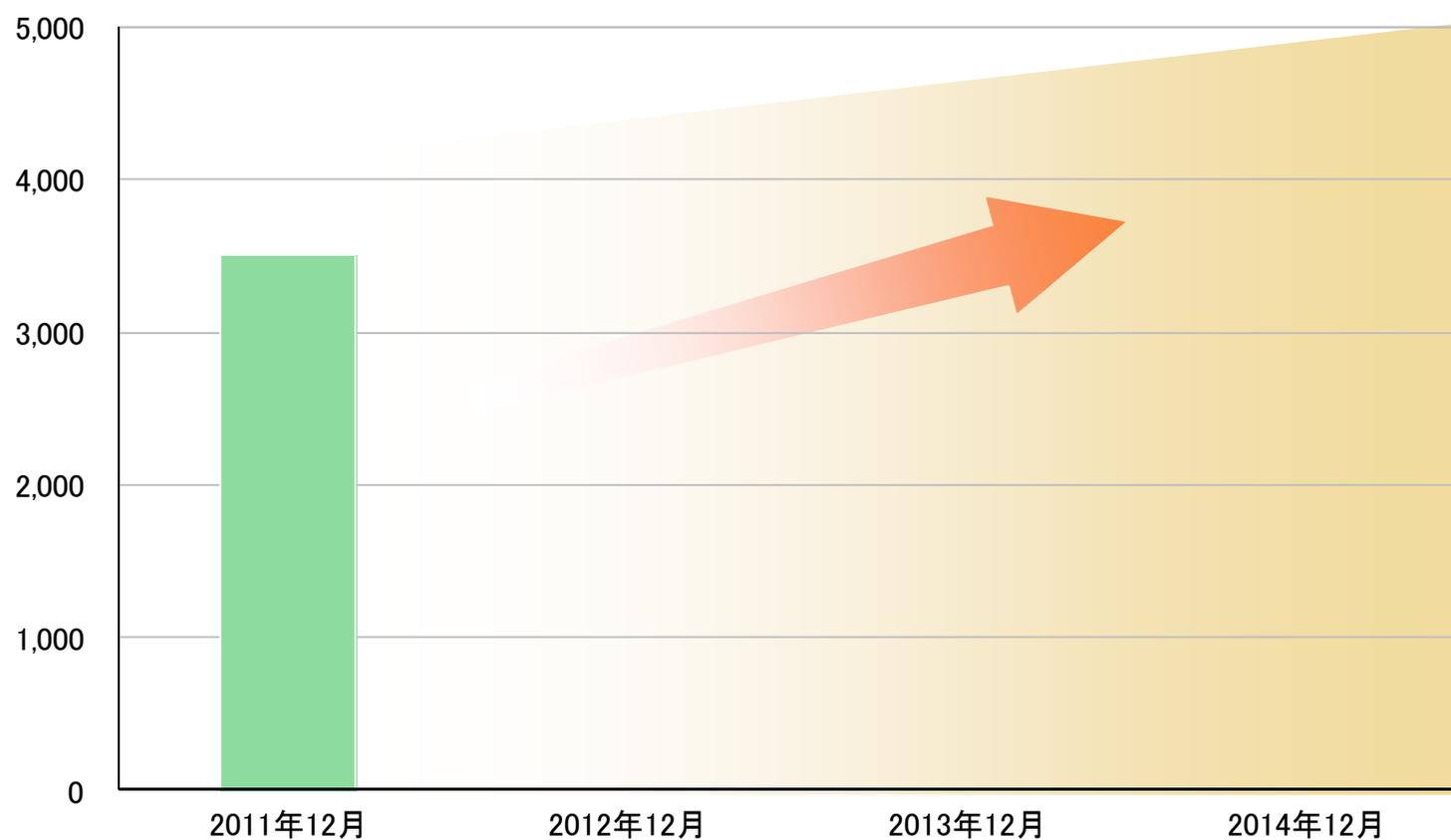


シリコンウエハ市場の動向

- 半導体用途の拡大に伴い、シリコンウエハの需要は、300mmを中心に伸びていくと予想される。

300mmウエハの需要予想

(千枚/月)



出所: 弊社推測



今後の経営戦略



基本方針

基本方針

1. 現存事業の安定利益源化
2. 新たな収益源の構築
3. グループ基盤の強化

4つの柱





1. 現存事業の安定利益源化

1) FOSB (300mm&450mm) 事業

- 300mmFOSBシェアの維持
- 450mmFOSBの着実な発進



品質の造り込みとコスト削減

2) 既存製品事業

① プラスチック成形事業(ミライアル)

- 当社コア技術の再確認



- 新製品開発、販売チャネル拡大

② 成形機事業(山城)

- 標準汎用機の販売促進と原価低減、大型機の販売促進
- 付加価値の高い特殊機の販売強化



2. 新たな収益源の構築

3) 山城/コラボ事業

- 成形機(山城)と成形品(ミライアル)のコラボレーション
- ↓
- 縦型による成形品の製造立ち上げ → 新製品開発

4) 新規事業

- ① 新規製品開発
 - グループ内技術の活用、マーケットの掘り起こし
- ② 新規事業の創出
 - ドメイン拡大・多角化による事業リスクの分散



本日はありがとうございました

「ミライアルの未来」

明日に向かって

「未来を見つめ」「未来を考え」「未来を創る」

夢と創造に挑戦

IR問い合わせ窓口

ミライアル株式会社 経理部

電話:03-3986-3782 FAX:03-3986-3853 E-Mail:investor_relations-m@miraial.co.jp

<将来見通し等に関する注意事項>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。